

『地誌編輯材料取調書』から読み解く皆川八ヶ村の信仰史

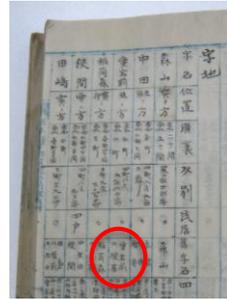
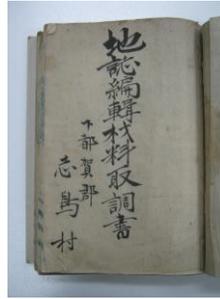
栃木県立学悠館高等学校歴史研究部

はじめに

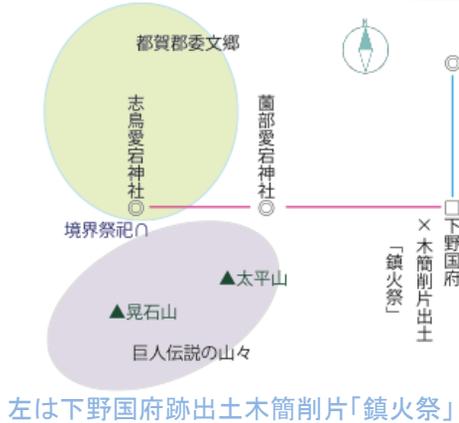
私たちの先輩は、平成25年度から栃木市皆川地区八ヶ村の『地誌編輯材料取調書』の翻刻を、毎年一ヶ村ずつ行ってきた。今年度六ヶ村目を読み終え、古代から近代に至る信仰の脈絡に気がついた。

1. 古代の巨人伝説と製鉄

『地誌・志鳥村』の旧字名の中に「大檀房」を見つけた。大檀房とはダイダラボッチのことで、この地にも巨人伝説が存在していたのではないかと。実際、太平山に「イデン坊」と呼ばれる巨人がいたという伝承が、『栃木市史民俗編』に書かれている。



旧字「大檀房」



皆川は『和名抄』「下野国都賀郡委文郷」とされ、古墳や古代遺跡が多い。

「大檀房」は志鳥町愛宕神社の前にある。祭神は軻遇突智命で、火伏・鍛冶の神である。

その位置は下野国府の真西にあたり、その直線上に蘭部町愛宕神社も存在する。現在も栃木市は冬に強い西風が吹く。二つ愛宕神社で国府を火災から護っていたのではないかと。

太平山の中腹には太平山神社がある。祭神は瓊瓊杵尊だが、裏手に「奥宮」と呼ばれる石祠があり、天目一箇神が祀られている、天岩戸に登場する鍛冶・刀剣造りの神である。

サイクロプス(ギリシア神話)・巨人・軻遇突智命・天目一箇神に共通するものは製鉄や鍛冶である。古代下野国は、奥州での戦争のため鉄・武器生産が盛んで、製鉄関連遺跡が数多く調査されている。

巨人は『常陸国風土記』にも登場する古来の在地の神ではないだろうか。その後、律令国家のもとで、製鉄や鍛冶の神に接近した。



志鳥町愛宕神社



太平山神社奥宮

以上より、「古代下野国都賀郡委文郷の人々は、火伏のため新たに創建された愛宕神社において、畿内の神々と共に古くからの巨人を祀っていた。この信仰には、製鉄・鍛冶・武器生産などに従事する人々も加わっていた」と考えた。

西を下野国府跡より望む



2. 中・近世の失われた富士山信仰

『地誌・岩出村』には、富士山についての記載がいくつかあった。そこで私たちは、岩出村周辺に失われた富士山信仰があったのではと考えた。そこで、岩出町とその周辺の富士山関連の史跡を調査した。





太平山山頂には**太平山富士浅間神社**がある。社伝では文保年間の創建。戦国時代に皆川氏は、山頂を中心に**太平山城**を築いた。

岩出古墳は6世紀末ごろ築かれた、横穴式石室を有する円墳である。周囲に5面の平場があり、後世に再利用された可能性が高い。富士山信仰で**霊窟**とされていたのだろう。

日限富士浅間神社は、寛永10年(1633)に太平山富士浅間神社**里宮**として遷宮されたと伝えられている。御祭神は**木花開耶媛命**で、伏見稻荷のように並んだ鳥居が特徴的である。

その結果、日限富士浅間神社参詣→錦着山登拝→永野川水垢離→岩出富士遥拝→岩出古墳霊窟→太平山富士浅間神社登拝といった、**修行・参詣の道**を想定できた。

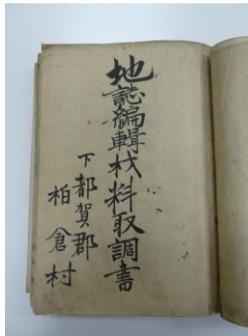
また『**皆川正中録**』によれば、天正14年(1586)皆川広照は北条氏真との戦いに際し、赤地に「**富士浅間大菩薩**」と書いた軍旗を用意したという。



これらから、「**岩出村周辺は、中世以来富士山信仰が盛んで、太平山富士浅間神社に至る失われた参詣路があった。**」と言えるだろう。

3. 近世・近代の水運信仰の繁栄

『**地誌・柏倉村**』には、鞍掛山頂上の**琴平神社**について詳細な記載がある。祭神として**崇徳天皇・大山祇命・大物主命**が祀られている。



鞍掛山遠景



現在の琴平神社本殿

栃木の街は近世初頭、日光山二社一寺造営をきっかけに**水運**で栄えた。琴平神社は、船主・船子等の信仰を集め、山頂のわずか240坪の平地に、多数の芸子が住み込む二階建ての茶屋が数十軒立ち並び、北関東一の社になったという。その繁栄は、山中に残る石垣や石造物からも窺える。



明治初年の繁栄を描いた額

境内にある昭和35年造立の石碑に「**産土神**」と記されていた。昭和20年に消失した本殿を再建した際に建てられたもので、「**近世から近代には水運の安全が祈願されたが、水運が衰えた昭和期には、土地と出身者の守護神として重視された**」という信仰の変化が分かる。



本殿再建記念碑

おわりに

このように皆川地区八ヶ村では、名前や祈りの内容に変遷はあるものの、古代から近年に至るまで、人々は太平山系の山々に、大いなる存在を感じていたに違いない。



山頂境内の額殿に至る石段・石垣と灯籠